

(1) 西土佐小・中学校

1. 研究主題

「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童生徒の育成」
～情報活用能力の育成を見据えた探究のプロセスを通して～

2. 主題設定の理由

西土佐地域は、自然豊かで四万十川が流れる中山間地域に位置しており、昔から林業、農業、川漁が盛んに行われている。近年では、少子高齢化、後継者不足という問題を抱えているものの、地域の人達は、子ども達が西土佐の良さに気づき、地域を大切に思い、地域に根ざして生きてもらいたいという願いをもっており、学校の活動にも協力的である。子ども達は素直で、友達とも穏やかに接し、互いに声をかけ合って活動する姿が見られるが、学習に対して主体的に取り組む姿勢に弱さが見られ、自分の思いを表現することが苦手であったり、自己有用感が低かったりする面もある。

昨年度より、「中山間地域における学校づくり推進事業」の研究指定を受け、西土佐小中学校の共通テーマ「レッツ チャレンジ! 西土佐っ子 ～西土佐を愛し 自分の思いをもって行動する 子どもの育成～」を設定し、生活科、総合的な学習の時間を柱に、西土佐地域の特色ある地域資源を活かすとともに、教科等横断的且つ小中9年間を見通した系統性のある計画のもと研究実践を進めている。前述の子ども達の実態や指定研究等を考慮し、本年度の研究主題を「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童生徒の育成 ～情報活用能力の育成を見据えた探究のプロセスを通して～」と設定した。

将来の予測が難しい社会において、主体的に情報を捉えながら、何が重要かを考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成は必要不可欠である。その情報活用能力の育成を見据えながら、西土佐地域の特色ある地域資源「ひと」「もの」「こと」を活かした体験活動等を基盤に、子ども達自らが課題を見つけ、情報収集や情報分析をしたり、目的に沿ったまとめ・表現を行い、自分たちの思いを発信したりする探究のプロセスを通して学習に取り組む中で、主体性を育むとともに、自信をもって自分の思いや考えを表現できる力を身に付けることを目指し、本主題を設定した。

3. 研究仮説

研究主題に向けて、学習指導要領において「探究的な学び」「情報活用能力の育成」とはどのようなものなのかを確認しながら、以下の仮説のもとと取組を進める。

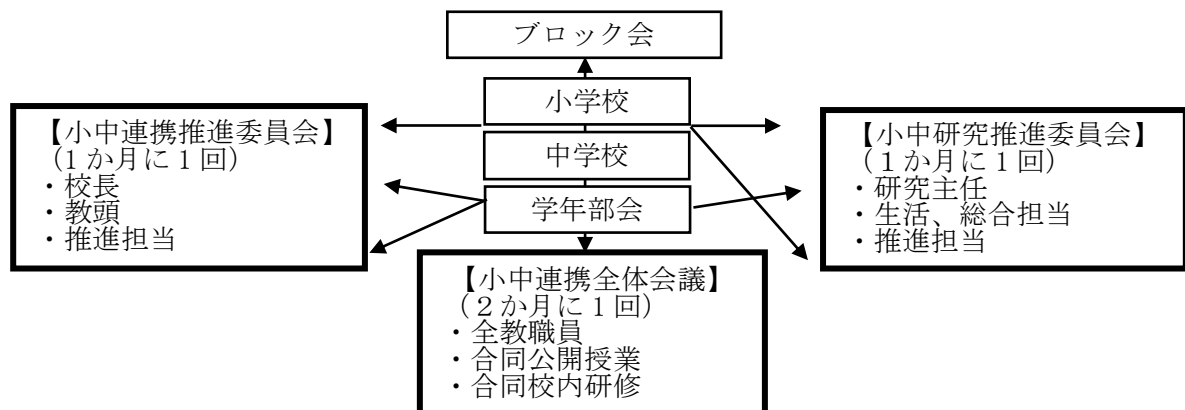
【仮説】

生活科・総合的な学習の時間を中心に、西土佐地域の特色ある地域資源について教材開発を行うことを基盤に、未来を生きる子ども達に必要な情報活用能力の育成を見据えながら、探究のプロセスを通して学習を進めることで、子ども達自らが課題意識をもち、課題解決に向けて主体的に動いたり、相手意識をもって自分の思いや考えを伝え合い、根拠を示して説明したりすることができるのではないか。

4. 研究の進め方と方法

＜研究体制＞

小中合同での研究のスタートに当たり、研究体制を構築し、「研究推進委員会」を中心として研究を進めた。



<研究内容>

9年間の学びをつなぐ実践

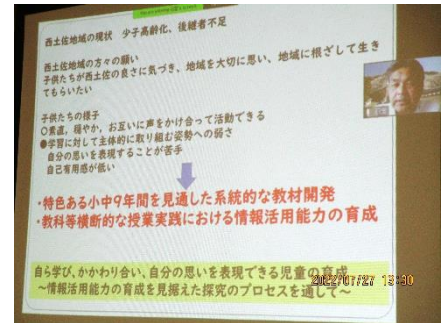
- (1) 主体性を引き出す単元計画・授業づくり
- (2) 西土佐地域の特色ある教材開発
- (3) 情報活用能力の育成に向けた具体的な取組

5. 9年間の学びをつなぐ実践

(1) 主体性を引き出す単元計画・授業づくり

①カリマネ表・評価規準一覧表の見直し

- ・教科等横断的な計画となるようカリキュラム・マネジメント表を見直し、確認しながら実践につなげた。教科の内容と総合的な学習の時間のつながりや整合性を吟味し、系統性を意識した計画につながった。
- ・9年間の系統的な評価規準を作成し、探究的な学習で身に付ける能力を明確にし、表現力・読解力・問題解決力の育成を目指した。



②総合的な学習の時間についての研修

- ・兵庫県の石堂裕先生をリモートで講師に招き、「指導者が探究的な学習でどんな能力を身に付けるのかを明確にすることで確かな評価につながることで、小中の系統だった単元計画を作成するには、各学年の教科と総合的な学習の時間のつながりや整合性をしっかり吟味する必要があること」といった貴重なご示唆をいただき、単元計画の見直しに生かすことができた。

③探究のプロセスを回す際のポイントの再確認

- ・課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を回す中で、常に目的意識、相手意識を持たせる。
- ・「効果的な課題設定」を行うためには、充実した体験活動をもとに、子ども達の意識の「ずれ」や取組への「あこがれ」を持たせた実践を目指すことが重要である。



③学習リーダーによる学び(中学校)

- ・中学校では、自分事として取り組ませるための改善策として学習リーダーが授業を進めていく学習形態をとった。授業までの打ち合わせや授業における教師の立ち位置をどうするか等、まだ課題もあるが、生徒主体の授業に今後も取り組んでいく。



(2) 西土佐地域の特色ある教材開発

①学校運営協議会の活用

- ・6月28日の小中合同のコミュニティ・スクールに係る学校運営協議会で、学校運営方針についての説明をした後、これまでの生活科、総合的な学習の時間における地域の学習についての取組を紹介した。会の中で、「四万十川や農産物も特色だが、昔から西土佐は林業が盛んで、林業にも目を向けることもできるのでは」という意見があり、小学校3・4年生の「すてき発見! 四万十川」では、



川と森林との関係に着目し、植林活動につなげることができた。また、中学校1年生の「地域発見」では、学校支援本部コーディネーターに紹介いただき、森林組合や製材所などに協力していただき、学習を進めることができた。

②地域との連携

- 生活科【みんなでつかうまちのしせつ】小学校2年生

四万十市立図書館西土佐分館に見学に行った。図書館の中を見学し、置いてある本を見たり読んだりし、コーナーに分けて本を置いていることや貸し借りの仕方などを教えてもらった。

- 総合的な学習の時間

【西土佐応援プロジェクト】小学校6年生

地域の川漁師の方に来ていただき、鮎やウナギ、川エビなどの漁について教えていただいた。また、川漁の道具を実際に見せてもらいながら、漁の仕方、四万十川の変化や漁獲量の変化などについて聞くことができた。

- 総合的な学習の時間

【地域発見～地域を理解し、発信しよう～】中学校2年生

JAや地域の農家の方に来ていただき、苗の植えつけを教わり米ナスの栽培学習に取り組んだ。そして、米ナスについて調べたことをプレゼンにまとめ、県立中、中村西中、中村中で発表した後アンケート調査も行い、その後の学習につなげた。フジグランでは、来客者に発表し、JAと協力して米ナスの販売学習も行った。



(3) 情報活用能力の育成に向けた具体的な取組

①取組の方向性の明確化

これからの社会を生きる子ども達にとって欠かすことのできない「情報活用能力の育成」について、取組の方向性を明確にするために、研究主題のサブテーマに「情報活用能力の育成を見据えた」という文言を追加し、探究のプロセスを回す際に、あらゆる場面で情報活用能力の育成を図ることとした。

②情報活用能力系統表をもとにした授業実践

情報活用能力系統表

を作成し、探究のプロセスを回す中で、具体的に情報活用能力の育成を図ることとした。

「情報活用能力の育成」についての研修を

を行い、特に、考える技法や思考ツールについ

て、子どもたちが活動

の内容に合わせて、ど

ういう考え方を使えばよいか選ばせることを、意識してきた。また、この系統表は、職員室に

掲示し、加筆しながら指導者の意識を高めることとした。

令和4年度 西土佐小・中学校 授業が身に付けさせたい探究のプロセスに基づいた情報活用能力系統表				
	小学4年学年	小学5年学年	小学6年学年	中学校
① 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	① 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	① 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	① 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	① 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。
② 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	② 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	② 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	② 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	② 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。
③ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	③ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	③ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	③ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	③ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。
④ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	④ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	④ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	④ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	④ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。
⑤ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑤ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑤ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑤ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑤ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。
⑥ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑥ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑥ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑥ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑥ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。
⑦ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑦ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑦ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑦ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑦ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。
⑧ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑧ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑧ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑧ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑧ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。
⑨ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑨ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑨ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑨ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑨ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。
⑩ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑩ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑩ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑩ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。	⑩ 身近な生活や学習の場面で、情報活用能力の育成を図る。

③小中合同授業研 【講師 指定事業アドバイザー 小堀 美雅子 先生】

<6月>

小学校6年生、中学校1年生が公開授業を行った。研究協議の視点を「めざす子どもの姿に向かう具体的な手立てがあり、それは効果的だったか」にしばって協議した。



<研究協議からの学び>

- ・子ども達が本気で取り組める授業づくり。
- ・児童の目的意識を明確に持たせられるように、教師自身が見通しを持った単元構成を計画する。
- ・一人一人が複数の情報を整理する時間を確保する。
- ・思考ツールの特徴を教え、目的に応じて選択できるようにする。
- ・児童の意見を認め合う集団づくり。

<今後の取り組み>

- ・目的意識・相手意識を明確にした授業
- ・思考ツールの効果的活用

調べたことについて、思考ツールを活用してグループで話し合う活動（小6）



タブレットを活用してグループの協議内容をまとめて発表し、意見交流
(中1)

<10月>

小学校2, 3, 4年生、中学校2年生が公開授業を行った。研究協議では、「自ら課題意識をもち、課題解決に向けて主体的に活動する姿があったか、また、その手立ては効果的だったか」という視点で話し合った。

<研究協議からの学び>

- ・子ども達のつぶやきをつなげながら、子ども達同士で授業が進められるようにする。
- ・目的意識と相手意識をしっかりと持つことができるように、課題を子ども自身のものにする。
- ・話し合いや振り返りの時間を十分にとることができるよう、意見を精選して発言させる。
- ・子ども達のつぶやきをつなげながら、子ども達同士で授業が進められるようにする。
- ・地域の産業に関わる人の話を聞き自分の生活と関連付けて考えられるようにする。
- ・振り返りの時間を確保し、次の課題へとつなげる。
- ・ゴールから逆算した見通しを持った計画を立てる。

<今後の取り組み>

- ・導入で目的意識や相手意識を確認
- ・視点を明確にした話し合い
- ・観点をしぼり、対話や振り返りの時間を確保
- ・思考ツールの活用



見つけた秋について紹介し、秋はどんな季節なのか話し合った。（小1）



四万十川について調べたことを発表し、今と昔を比較して考えた。（小3・4）



アンケート結果をもとに、プレゼンの効果について話し合った。（中2）

< 11月 >

小学校1、5年生、中学校3年生が公開授業を行った。課題であった目的意識、相手意識を持たせることを意識した授業に取り組むことで、自分事として学びに向かう姿が見られ、児童生徒の意識の変化を感じた。

< 研究協議からの学び >

- ・評価基準を確認し、児童の実態に合わせた振り返りを具体的にイメージしておく。
- ・児童同士での学び合いを目指し、意見の交流の仕方を工夫する。
- ・児童同士の意見のやり取りが深まるよう、切り返しの発問をする。
- ・毎時間単元の目的・相手意識をおさえ、それぞれの時間の活動の目的もおさえ、主体的な学習になるようにする。

< 今後の取り組み >

- ・評価基準をもとに振り返りをイメージした授業
- ・気づきの質を高めるための手立て
- ・子どもの思考を深めるための手立て
- ・思考ツールの積極的な活用、学習リーダー

生徒（学習リーダー）が主体となって自分たちができる地域貢献について話し合った。（中3）



学校や公園で見つけた秋について紹介し、秋はどんな季節なのか考えた。（小1）



調べた特産物についての発信方法を、ピラミッドチャートを活用して話し合った。（小5）

④埼玉県学力・学習状況調査

◎一人一人の個の伸びを把握できる調査

- ・小4から中3まで同じ子どもを継続的に調査
- ・異なる学年、異なる年度の調査でも比較可能
- ・非認知能力や学習方略にも注目

< 非認知能力 >

自己効力感・自制心・勤勉性・やり抜く力・向社会性

< 学習方略 >

学習の効果を高めるために子どもが意図的に行う活動

○子ども、保護者との個人面談で、子どもの良さを共有

○非認知能力、学習方略について、個々の課題、今後の取り組みを教職員間で確認

	国語		算数・数学		R3→R4(変化量)									
	R4レベル	昨年度からの学力の伸び	R3レベル	R4レベル	昨年度からの学力の伸び	R3レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力
								柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人際リソース方略	認知的方略	努力調整方略	
学校平均														
市町村平均														
埼玉県平均														
	5-A	-6	7-A	7-C	1	6-A	1.0	-0.5	-0.8	0.0	-	0.5	0.8	0.0

氏名	分析・見取り	具体的取組
	プランニング方略-0.8 柔軟的方略-0.5 →計画的に取り組むことに弱さがあり、作業に時間がかかる。	学習を振り返り、できてないところを把握させ、いろいろな学習の仕方を教え、活用する場をつくる。 互いに認め合う機会を増やし、教師と話す時間を設けて、自尊感情を高める。

・分析の仕方について

児童生徒の結果が記載されている「学力分析データ」を分析する。昨年からの伸びを中心にデータ結果をみて、個々の課題にあった取り組みを考え、個人分析取組シートにまとめた。

例えば、この児童の場合、柔軟的方略、プランニング方略が昨年度より下がっており、自己効力感についても変化がなかった。プランニング方略は、計画的に学習に取り組むことなので、その数値が下がっているということは、学習するときに計画を立てて始めたり、途中で立ち止まって見直したりするということができいていないと言える。自己効力感の数値も変わっておらず、自分に自信がないと分析をした。その課題を解決するために、学習を振り返り、できていないところを把握させ、いろいろな学習の仕方を教え、活用する場をつくること、互いに認め合う機会を増やし、教師と話す時間を設けて、自尊感情を高めていく、という取組を行うこととした。

・同一集団による非認知能力についての R3～R4 の経年比較

学年	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
項目	自己効力感	勤勉性	自制心	自己効力感	やりぬく力
増減	+0.3	-0.1	-0.1	0.0	+0.3

「非認知能力」の経年比較の結果は、前年比マイナスになっている項目もあり、研究実践がまだまだ子ども達の実態に表れていないのが現実である。

⑤総合的な学習の時間授業アンケートについて（小学校 3 年生～中学校 3 年生）

項目	R 3 5 月	R 4 10 月	増減
総合的な学習の時間は楽しい	87.8	88.0	+0.2
積極的に話しかけたり発言したりしている	67.3	72.8	+5.5
自分の住んでいる地域が好き	85.7	95.7	+10.0
地域や高知県のためになる仕事がしたい	70.4	79.3	+8.9

総合的な学習の時間に関する授業アンケート結果において、「総合的な学習の時間は楽しい」については 0.2 ポイントとわずかな上昇だったが、子ども達の弱みである主体性や表現力に係わる項目「積極的に話しかけたり発言したりしている」は 5.5 ポイントの上昇、「自分の住んでいる地域が好き」は 10 ポイントの上昇となった。共通テーマ「レッツ チャレンジ 西土佐っ子～西土佐を愛し 自分の思いをもって行動する子どもの育成～」に少しは近づけたのではないかと考察している。

6. 成果と課題

【成果】

- 研究推進委員会・連携推進委員会・連携全体会議を定期的を開催することで、教員が方向性を確認しながら実践できた。
- 主体的な活動となるよう全体計画、年間指導計画の見直しを図った。
- 実態をもとに単元計画、探究課題との出会わせ方を修正しながら取り組みを進めた。
- 情報活用能力系統表や評価規準一覧表を確認しながら実践に活用した。

【課題】

- 多様な地域の資源の活用
- 児童生徒の主体性を引き出すことのできる課題設定・単元計画・授業づくり
- 探究的な学習の実現と評価
- 埼玉県学力・学習状況調査の効果的な活用
- コミュニティ・スクールの充実